県内観光における現状と課題

三重県経済情勢に関する意見交換会（第24回）資料（抜粋）

県内観光に対する主な声

伊勢志摩サミット開催効果と現状

- 式年遷宮終了後、鳥羽市への観光客は緩やかな減少傾向。サミットや菓子博などのビッグイベントが開催されたが、減少する観光客をどれだけキープするかが課題。
- サミット効果もあり、志摩地域の外国人観光客数は増加している。台湾からの旅行者が非常に多い。
- 御在所岳への訪問客は伊勢志摩サミットが終わってから急激に落ち込んでいる。
- 伊勢志摩サミットの開催により、高級ホテルが新設されるなど観光客を受け入れるホテル等の基盤が整ったことに加え、ブランド力がついた。
- 三重県の日本酒が脚光を浴びており、伊勢志摩サミットを機に売上が伸び工場を増設するなど好循環が生まれている。

外国船籍入港への期待

- 今後もインバウンド需要に期待。忍者体験の充実など付加価値を高め、他地域との差別化を図りたい。
- 外国船籍の観光客は他地域へ出かけてしまうので経済効果としては期待できない。一方、狙い目となるのは1,000人規模と言われる乗務員の消費。
- 現在、港で荷役作業を行っていない日曜日に外国船籍が寄港しているが、今後、本格的に誘致を進めるためには、観光と物流の折り合いが課題となる。

インバウンドに対する課題

- 外国人旅行客は増加しているが、外国語に対応できる人材が不足。
- 新名神高速道路の開通により京都方面へのアクセスが良くなり、宿泊地としての利用が増えている。素泊まりの客が多く、これらを地元に留めることが課題。
- 外国語が話せなくともジェスチャーや翻訳アプリを利用して意思疎通が可能。日本は安全な国であるため外国人には言語が通じない不安感はなく、むしろジェスチャーでの会話を楽しんでいる様子。

エコツーリズムの現状

- エコツーリズムは、観光業全体の舵を握るものと見込んでいる。特に欧米人はアクティビティを重視しており、地域の資源を活用しながら取り組む必要。
- 自然の豊かさを活かして「体感」をキーワードとした誘客に取り組んでいきたい。そうして観光客に少しでも滞在してもらえるような受け皿を用意することが課題。
- エコツーリズムはサミットから流れが変わった。以前は楽しい体験をしてもらうだけだったが、サミット後は地域の課題を共有したいという観光客の要望が高まっている。